

### 第3章 各種音読指導法

#### 1. 音読指導法一覧

【モデルを十分に提示しながら行う標準的な指導法】

- ① バックワード・イチゴ読み  
教師が英文を後ろから前へ、一度に音読する語数を一語ずつ増やしながら音読する。
- ② バックワード・ビルドアップ  
教師が本文を最小の意味単位ごとに数語ずつ、後ろから積み上げながら、1度に音読する語数を増やして音読する。
- ③ リッスン・アンド・リピート(P36)  
句または節または文ごとに教師の朗読を聴かせて、生徒に英文を見ながらモデルの後について言わせる。
- ④ リード・アラウド・リッスン・アンド・リピート(P38)  
教師が句・節・文の日本語訳を言い、それに該当する句・節・文を生徒が音読する。
- ⑤ パラレルリーディング(オーバーラッピング)(P39)  
教師またはCDの朗読を聴くと同時に、英文を見ながら音読させる。
- ⑥ シャドーイング(P41)  
英文を見ないで、聞こえてきたモデルとほぼ同時に(実際は少し遅れて)英文を再生する。
- ⑦ ディレード・シャドーイング(P43)  
高く上げた教師の片方の手が振り下ろされると同時に、教師またはCDの朗読より、2語～数語遅れてシャドーイングする。
- ⑧ リード・アンド・ルック・アップ(P44)  
生徒が英文を黙読した後、顔をあげて黙読した英文を誰かに語りかけるように言う。
- ⑨ 複数文リード・アンド・ルック・アップ(P47)  
2文以上をリード・アンド・ルック・アップで一気に英文を言わせる練習。
- ⑩ 空所補充音読(本文の穴埋め音読)(P49)  
本文の新出語句や重要語句などを空所にしたプリントを配布して行う。
- 11 鉛筆置き音読(P51)  
⑩の変形版。筆記用具を英文の上の縦または斜めに置いた状態で音読させる。
- 12 リピーティング  
③の閉本版。モデルの朗読を聴いて、英文を見ずに、すぐに後について言う。
- 13 インテイク・リーディング  
⑫のペアワーク版。
- 14 ディレード・リピーティング(P55)  
英文を見ないでモデルの音読を聞き、教師が合図するまで頭の中でその英文を再生し続け、合図と同時に、声に出して再生する。

- 15 **メモリー・リーディング**  
黙読してから顔を上げて、数秒後に教師から合図があるまで頭の中で反復して、教師の合図で黙読した英文を言う。
- 16 **リードアラウド・リッスン・アンド・リピート+メモリー・リーディング**  
④で英文を言わせたあと、顔を上げさせ、数秒後にもう一度その英文を言わせる
- 17 **リード・アンド・ルック・アップ+メモリー・リーディング**  
教師が黙読時間をコントロールして一斉に黙読をしたあと、顔を上げさせ数秒後に言わせる。
- 18 **フレーズ単位日英通訳演習(P62)**  
教科書本文または重要例文の日本語訳をフレーズ単位で聴いて(見て)それに該当する英語で言う。
- 19 **日英通訳演習(P63)**  
日本語を英語に直して即座に言う練習。(音読練習後のアウトプット活動として有効)
- 20 **キーワード付き音読(P65)**  
キーワードのみを提示してそれを見ながら教科書本文を再生する。
- 21 **ストーリー・リプロダクション(P67)**  
キーワードを元に教科書を見ないで本文を再生する。

**【重要な文法事項や構文や表現を短時間で定着させるための音読指導法】**

- 22 **スピード・リーディング・アラウド(P68)**  
その日の授業で必ず覚えさせたい1つから3つの英文を時間制限をしてできるだけ速く何度も口に出して言わせる。
- 23 **そして、何もなくなった(P70)**  
その日の授業で必ず覚えさせたい1つから3つの英文を前から1~3語ずつ消しながら生徒に音読させて覚えさせる。

**【本文を発展させるための音読指導法】**

- 24 **Q&A 音読(P72)**  
ペアで、相手の質問を聴いてその答えとなる本文の該当箇所を音読する。
- 25 **主語変換音読(P73)**  
人物を主語にした英文について、英文の主語を変更し、それに伴ってその他の箇所も変更して音読する
- 26 **オーラル・インタープリテーション(P74)**  
朗読により自分の解釈を表現する。(英文の話者になったつもりで音読→変身劇)
- 27 **状況設定音読(P82)**  
ペアで状況を設定して音読する。

**【変化を付けるための音読指導法】**

**28 ネイティブ・ピッタシ音読(P83)**

教科書付属の音声 CD で本文が読まれる時間を計測後、同時間で教科書本文を音読させる。

**29 妨害読み(P85)**

ペアになり、それぞれの生徒が別々の場所を音読する。

**30 追っかけ読み(P86)**

ペアになり、S1 が 1 文または指定されたところまで読み終わったら、S2 が最初から読み始め、S1 を追い越すように速く読む。S1 は追いつかれないように速く読む。

**31 逆さま読み(P87)**

教科書を逆さまにした状態で音読する。

**32 つっこみ音読(P88)**

” Pardon me?” などと相手に突っ込みを入れられながら音読し、突っ込まれたら同じ文を再度音読する。

**33 リレー音読(P89)**

ペアで、音読している生徒が突然音読をとめると、聞いていた生徒がその続きを音読する。リレーのように次々交代して音読していく。

**34 役割別音読(P91)**

教師対生徒、生徒対生徒で対話文を音読する。

**35 スキャニング音読(P92)**

教師が読み上げた語句、または日本語訳に該当する英文を探して音読する。

**36 輪読(P92)**

4・5人のグループで、一人ずつ順番に1文ずつ音読する。

**【一人一人の生徒に自分のペースで音読させる音読指導法】**

**37 バズ・リーディング(P95)**

各自が自分のペースで音読する。時間や回数を決めて実施する。

**38 四方読み(P96)**

バズ・リーディングの変形で、立って向きを変えて何回か音読する。

## ☆定着のためのパラレルリーディングとシャドーイングの指導

### 【留意点】

- (1)必ず教師がデモンストレーションをする。
- (2)生徒にはモデルよく聴くゆおうに指示する。無視して音読させない。
- (3)モデルの速さは生徒がついてこられる速度にして、徐々に速くする。
- (4)パラレルリーディングに慣れてからシャドーイングさせる。
- (5)(4)により、さらなる復唱の自動化を試みる。

### 【実践案】

- Option1：音声面のみ注意到してパラレルリーディングを行う
- Option2：意味を同時に想起させるコンテンツパラレルリーディング
- Option3：パラレルリーディングをペアで評価し合う
- Option4：シャドーイングによる定着
- Option5：シャドーイングをペアで評価し合う
- Option6：教師が評価する場合
- Option7：シャドーイングのペアワークが困難な場合
- Option8：ピンポイントに弱点を補強するペアシャドーイング
- Option9：フレーズごとのリピーティング
- Option10：シャドーイング大会

## 2. 基礎知識(1)リード・アンド・ルックアップによる表現記憶

### (1)指導の実際と問題点

よくある指導法は、①生徒が教科書を見ながら1文を音読し、②次に教科書から目を離して同じ文を繰り返す。③(ペアの場合)相手は教科書を見ながら正しいかどうか確認するという方法である。しかし、これではリード・アンド・ルックアップを「テキストを読み、読んだところを目をあげていう」という表面的理解でとらえてしまっている。

### (2)理論とねらい

\*白畑ほか(1999)：リード・アンド・ルックアップは「読みの練習において、まずテキストを黙読し、次に文字から目を離して顔を上げ、誰かに語りかけるようにその文を言う練習方法」

\*ウェスト(1968)：「第1には、このようにして生徒が話す場合には「伝達」あるいは「行為」として実際に話しかけるように話しているということであり、第2には、句の中の単語、あるいは文全体を頭にいれていなければならないということである。つ

まり、「本から口へ」ではなく、「本から頭へ、そして頭から口へ」という関連なのである。その記憶の間合い(interval)が学習作用のなかばを構成する。

⇒誰かに話しかけているという意識。黙読する際には、文の意味を捉え、状況をイメージし書き手や話し手の気持ちを考え、頭の中で何度も繰り返す。

\*國弘(1999) : 『只管朗読』リード・アンド・ルックアップと同様。音読する際、「一通り意味の分かった英文」が条件。「音読を繰り返すことによって英語の語順に従って心の中に絵が描けるようになって」いかなければならない。冠詞や単複の違いによるイメージの鮮明化も重要。

### (3)対話文を使った方法

\*Via(1976) : コミュニケーションにおける「聞く」ことの重要性を考慮。聞き手側は、カードの台詞を見るのではなく話し手とアイコンタクトをして、語りかけを聞き理解しようとするのがポイント。

## 3. 基礎知識(2)通訳トレーニングと英語の学習・教育法

### (1)はじめに

通訳とは : 「ある言語で語られる情報を聞き取り、理解し、記憶し、その内容を別の言語に置き換えて、聞き手に伝えるプロセス」(日本通訳協会,2007 : 73)

- ・同時通訳(simultaneous interpretation)・・・シャドーイングとの類似性
- ・逐次通訳(consecutive interpretation)・・・リピーティングとの類似性

### (2)同時通訳・逐次通訳とシャドーイング・リピーティングの関係

	同時通訳	逐次通訳
タスクの種類	二重処理	一重処理
タスクの性質	オンライン	オフライン
記憶への負荷	小さい	大きい
	潜在学習※1 (implicit learning)	顕在学習※2 (explicit learning)
	シャドーイング	リピーティング

※1 処理内容を意識する余裕がなく、無意識的に情報が定着する

※2 意識的に内容を記憶する

### (3)英語学習・教育に応用可能な通訳トレーニング法

- ①クイック・レスポンス：口頭で英語から日本語へ素早く変換していく
- ②トランスクリプション：音声を聞きながら適宜一時停止して書き取る  
(一種のディクテーション)
- ③リプロダクション：ある程度の長さ(約 10 語)の英文を聞き、そのまま再生する  
パラフレーズ：ある程度の長さの英文を聞き原文とは異なる表現で口頭再生する
- ④メモ取り：音声を聞きながら、訳出に必要な情報をメモにとる
- ⑤ディクトグロス：一定量の英文を聞いてメモをとり、それをもとにオリジナルのテキストを筆記再生する(染谷, 2008)p112

### (4)通訳トレーニングを英語学習・教育法の開発に取り込むこと

集中力・思考力を培い、知識の蓄積を行いながらも、段階的に英語力を養成する通訳トレーニングは、インプットのレベルを大幅にやさしくすることで高校・大学レベルの授業へも応用可能なものになる。

#### [感想]

シャドーイングやリピーティングが中学・高校の授業でよく行われていたが、一言で「音読」と言っても、その方法次第でいくらでもパターンがある。ただし、毎回同じことをしていても生徒を飽きさせるだけで、毎回違う方法をしていても定着の障害になるだろう。その教室の環境や、生徒の能力や性格に合わせたパターンの選択もポイントとなるのではないか。教室英語においてアウトプットの中核になるであろう音読を、文法や読解との兼ね合いを考えてどの程度の量、行っていくかも大きな課題かもしれない。